

令和5年度 第2回宝達志水町介護保険事業計画等策定委員会	
議件	(1)第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の素案について (2)意見交換 (3)その他(所得段階別保険料額(推計値)について)
日時	令和5年12月18日(月)午後1時00分～午後2時05分
場所	宝達志水町民センター「アステラス」2階 研修室
出欠	出席:松沼委員長、西澤委員、吉野委員、諸田委員、杉中委員、山本委員、金子委員、 下次委員 欠席:林委員
事務局	山本課長、寺崎課長補佐、畑山主幹、濱谷主任 (株)ジャパンインターナショナル総合研究所 岡田営業部長、熊本主任研究員
議事	<p>〈資料説明〉</p> <p>(1)第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画の素案について (2)所得段階別保険料額(推計値)について</p> <p>〈質問事項・意見・回答事項〉</p> <p>委員 居宅介護支援について、利用者が増加すると予測されているが、数値を見ると増加していきと言えないのではないか。</p> <p>事務局 全体を通して見ると、横ばいから増加している、横ばいに近いかと思います。また検討します。</p> <p>委員 認知症初期集中支援チームとはどのようなものか。</p> <p>事務局 認知症の疑いである人を早期から対応するために、医師、包括職員等関係者が集まり、検討するものです。</p> <p>委員 認知症の人は相談に来ないと分からない。健診で見つけるなど、予防がされていないということか。</p> <p>事務局 特定健診は行っているが、困って相談に来られて、支援することとなります。</p> <p>委員</p>

家族から相談されることが多い。サービスにつながらないケースがある。そのような時に、地域包括に報告して、訪問して、話を聞き、必要であれば専門機関へつなげることもある。

民生委員から連絡があつて把握することもある。チームはできている。

自分は、認知症のサポート医でもあり、いろいろ相談があつて、確実な認知症の把握はできないが、支援するシステムはできています。

委員

そこまで進まないと家族も気づかない。生活に困らないと難しいということか。

委員

家族が困って相談して、支援に結びつけることになる。早くから見つけられるといいけれど。

委員

その前の段階で気づいてあげないと思うが、難しいとは思うが。自分も経験したので分かるので。早めに見つけられないかと思う。

委員

医療機関へ行くのは敷居が高いので、役場や民生委員に相談したり、区長さんに相談したりしてそのようなところから、把握することもある。

委員

民生委員も相談されてもどう対応したらいいか困ることがある。

委員

いろいろなところで相談が入ると思うが、最初の相談の入り口(場所)がわかりにくい。デパートの総合案内のような所で一本化できればわかりやすい。そこからいろいろな所に紹介して支援していくことがわかりやすいのではないかと思う。それぞれのセクションがどのようなことができるのか分からないので、どこに行けばいいのか分からない。わかりやすいと相談しやすいのではないかと思う。

委員

地域包括支援センターがその役割となっている。役場に相談するのが一番。

委員

周知をもう少し、広報等で行ったら良いのではないか。

事務局

地域包括支援センターで総合相談を行っています。相談の窓口の周知が足りないので、広報に載せたり、アピールを行っていきたいと思います。

委員

調整済重度認定率とはどういう計算の仕方ですか。

事務局

年齢、性別を同じ条件にして調整したものです。標準化して各市町を比較したものと捉えていただきたい。

委員

この数値が高い方がそれだけ認知症の方が多い、認定されている人が多いと考えればいいか。

事務局

そうです。標準化しているので地域格差がない状況で比較しています。

委員

標準化することは必要であるが、地域の特徴や優先順位が消えてしまう

事務局

標準化は、あくまでも比較するためにお示しています。県や他町と比べて当町はどうであるかを示しています。

下次委員

7 ページ、8 ページの記載で、数字の間違いがある。

事務局

訂正します。

事務局

貴重なご意見、ありがとうございました。

第3回は、令和6年1月29日(月)です。皆さま何かとお忙しいとは存じますが、皆さまのご出席をいただきますようよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第2回宝達志水町介護保険事業計画等策定委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。